

情報 小学校



小学校
総合

体験!メディアのABC  15分

アップとルーズ (2001年放送)

この番組の良さ



デジタルカメラの使用前にぜひこの番組を!

教育現場で学習活動における情報収集に欠かすことのできないデジタルカメラやビデオカメラ。今や全国の学校で活用されています。それも、教師が使うのだけではなく、子どもたちが使用しているいろいろな情報収集活動をしています。しかし、手軽に撮影ができる反面、正しい撮影テクニックを教えないと、何を写しているのかわからないという問題が起きています。

撮影のテクニックは、「アップとルーズ」

子どもたちが撮影するのに、難しい撮影テクニックを教える必要はありません。そのため番組では、実演を多く取り入れて、アップとルーズによる「見え方の違い」を明らかにしています。この番組は、高学年向きですが、低学年や中学年の子どもたちにも理解できる内容です。

番組活用のポイント

撮影の基本は「アップとルーズ」

デジタルカメラやデジタルビデオの撮影は簡単です。失敗してもフィルムがなくなるわけではないし、必要ない画像や失敗した画像は簡単に削除できます。そうして何回でも撮影記録ができることがデジタルカメラやデジタル撮影機器のメリットです。実際に子どもたちが使用する場面は、昨今の教育現場では当たり前になってきています。しかし、子どもたちに機材を渡しても、撮影の基本を教えている教師はあまりいません。番組では、このアップとルーズを使った様々な違いを体験的に紹介しています。これは自分たちが体験したり、教師が教えたりするには少し大変なことですが、番組で紹介しているのを見れば一目瞭然です。

撮影はねらいを持って!

撮影機器を使って撮影するときに、その撮影の目的をしっかりとめないといけません。ただシャッターを切っているだけでは、撮影したあとの画像を見ても、何を伝えたいのかわかりにくいからです。撮影には、見せる目的が大切です。

番組をとおして、撮影のコツを理解できる

教育現場に急速に普及したデジタル撮影機器。撮影に関して指導してきた教師は少ないでしょう。しかし、最近ではデジタル撮影機器を使った画像や映像を使って、新聞づくりやプレゼンテーション・スライドショー・ビデオ編集などをすることが教育現場にも不可欠となってきています。このようなメディアによる表現力の育成にはこの番組のような撮影テクニックの指導が必要となります。

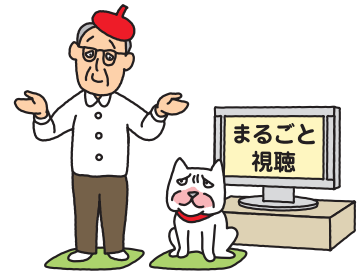
撮影の事前指導としてこの番組を目的にあった撮影テクニックを教えるだけで、子どもたちの表現力の向上につながるでしょう。

(加藤悦雄)

学習展開例

授業時間 45分

デジタルカメラで撮影しよう わかる映像の撮り方伝授!



時間配分	学習活動	教師の支援
3分	<p>①番組を視聴し、アップとルーズの効果について考える。</p> <p>アップとルーズ</p> <p>視聴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転に乗っているアップとルーズの場面。 (開始~1分59秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ○タイトル画面で一時停止し、デジタル撮影機器を使うときにアップとルーズというタイトルからどんなことが大事かを知らせる。 ○自転に乗るキャスターが、アップとルーズの撮影の違いで、見え方が全く違うものになることを知らせる。
11分	<p>②アップとルーズの実験からその効果について考える。</p> <p>25cm</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影距離を近づけることによって、表情や周りの様子に変化が出る。 (1分59秒~4分49秒) <p>64m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影距離を遠ざけることによって、全体がよくわかる画像になる。 (4分49秒~9分00秒) 	<ul style="list-style-type: none"> ○アップとルーズの撮影実験 4m・1m・25cmと撮影距離を近づけることで、表情や周りのようすの見え方がちがうことに気付かせる。 ○4m・16m・64mと撮影距離を遠ざけることで、画像の中が狭く感じたり被写体の全体の大きさに見え方に違うことに気付かせる。 ○アップとルーズのちがいで画像をとおして何がわかるのか何がちがうのかを気付かせる。 ○撮影する目的にあったアップとルーズの使い分けを考えるようにさせる。
6分	<p>③プロのカメラマンがねらいにそった映像の撮り方をしていることを知る。</p> <p>6分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ雑誌カメラマン・榎本郁也さんの撮影技術から学ぼう。 (9分00秒~終わり) 	<ul style="list-style-type: none"> ○表情を撮るときや全体の雰囲気をとるときの違いをプロのカメラマンの解説に沿って助言する。(学年や取り扱う内容によっては、すぐに体験に入ってもよい)
25分	<p>④実際にカメラを使って体験する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○撮影機材の説明をしながら、アップとルーズの撮影を体験させる。 ○体験させるときは、最初、カメラのズーム機能を使わずカメラと被写体の距離を変えることでアップとルーズの撮影ができることから体験させる。 ○次に、カメラのズーム機能を使っても同じようにアップとルーズの撮影ができることを体験させると良い。